

歩行専門デイサービス誕生

「笠盛」会長が介護事業

桐生初「コンパスウォーク」

「歩くこと」に特化したリハビリ型デイサービス事業所「コンパスウォーク桐生」が、桐生市相生町一丁目の足仲間地入り口（学習塾跡）で開業した。刺しゅう業の笠盛（同市三吉町一丁目）の笠原康利会長（71）が、自身の病気を機に歩くことの重要性に自覚め、介護事業の新会社「おんおくり」（同）を設立。「歩行訓練に特化したサービスを通じ、地域に恩返ししたい」と話す。

病気を機に「地域に恩返しを」

コンパスウォークは、介護ム（本社さいたま市、小池ならぬ「敬護」を经营理念と 修社長）が全国展開している介護事業者「リハプライ フランチャイズチェーンで、



「コンパスウォーク桐生」を開業した笠原社長（左）と理学療法士の秋山弘樹さん（桐生市相生町一丁目）

県内では2件目、桐生地域では第1号となる。

要介護者らを対象に、理学療法士など専門スタッフが利用者姿勢や筋力、持久力、痛みの有無などに応じて個別にプログラムを計画し、リハビリや整体を行うことで、高齢者の在宅生活を支援する。

笠原さんは、数年前に脊柱管狭窄（きょうさく）症を患い、歩行が困難になった経験から、歩くことの重要性を痛感。今年7月に「おんおくり」を設立して自ら社長となり、親交のある小池社長が展開するフランチャイズに加盟。今月2日に開業した。

笠盛では9月に、同社140年の歴史で初めて笠原家以外の代表者となる5代目の櫻井理社長が誕生。4代目の笠原さんは会長として将来の事業承継をにらみつつ、新たに介護事業に進出した格好だ。

「歩くことは元気の源」と笠原さん。「この事業が豊かな人生を送るための羅針盤となり、地域への恩返しと、次世代への恩送りをしていきたい」と話す。

午前8時半から午後5時半まで土・日曜日定休。利用定員20人で送迎つき。問い合わせは同事業所（電46・8891）へ。